

第4回 尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議

1 開催日時

令和7年10月22日（水）

開会 午前10時

閉会 午前11時45分

2 開催場所

尾張旭市役所南庁舎3階 講堂2

3 出席委員

水津 功、鈴木 溫、川口 暉子、加藤 健二郎、櫻井 由典、野村 治、

松原 しづ、奥村 紀代子、水戸部 茂樹

9名

4 欠席委員

0名

5 オブザーバー

愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長補佐 岩越 敦哉

愛知県尾張建設事務所総務課企画・防災グループ課長補佐 高木 直貴

6 欠席オブザーバー

0名

7 傍聴者数

0名

8 出席した事務局職員

都市整備部長 伊藤 秀記、都市計画課長 永尾 幸市、

都市計画課長補佐 小菅 匠範、都市計画課主査 菱田 和明

9 議題等

(1) はじめに

(2) 議題

第3次尾張旭市都市計画マスタープラン（素案）について

(3) その他

10 会議の要旨

事務局 (都市整備部長)	皆様、お待たせいたしました。 定刻となりましたので、ただいまから「第4回尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議」を始めさせていただきます。 私は、都市整備部長の伊藤と申します。本日は、大変お忙しい中、本会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から、本市行政に格別の御理解と御協力を賜っておりますことに対し、厚く御礼を申し上げます。 恐れ入りますが、以後は着座にて失礼いたします。 さて、本日は、8月の会議から引き続き、第4回目となります。本日の会議の議題につきましては、次第にありますとおり、「第3次尾張旭市
-----------------	--

	<p>都市計画マスターplan（素案）について」の、1件となっております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、皆様に連絡事項が2点ありますので、事務局より説明させていただきます。</p> <p>よろしくお願ひします。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>都市計画課長の永尾と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>まず1点目は、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>第4回尾張旭市都市計画マスターplan策定検討会議の次第、資料1として、「第3次尾張旭市都市計画マスターplan（素案）」、資料2として、「第3次尾張旭市都市計画マスターplan（素案）第6章（抜粋）」、参考資料1として、「第3次尾張旭市都市計画マスターplan策定スケジュール及び計画構成案」、参考資料2として、「前回会議での意見と修正の概要」、参考資料3として、「まちづくりの目標の成果指標について」参考資料4として、「構成員及び出席者名簿」、参考資料5として、「事務局等出席者名簿」、参考資料6として、「尾張旭市都市計画マスターplan策定検討会議設置要綱」、参考資料7として、「第4回尾張旭市都市計画マスターplan策定検討会議配席図」以上、多くの資料を配布しておりますが、不足している資料はございませんでしょうか。</p> <p>次に2点目といたしまして、「会議の公開について」でございます。本会議につきましては、公開の対象となっております。また、会議開催後には、本日の会議録を含む資料も公開いたしますので、御理解と御協力、よろしくお願ひいたします。</p> <p>事務局からの連絡事項は以上でございます。</p>
事務局 (都市整備部長)	<p>続きまして、本日の出席者につきまして御報告いたします。</p> <p>本日は、会議構成員9名、全員の方に御出席をいただきており、尾張旭市都市計画マスターplan策定検討会議設置要綱第5条第2項に規定する過半数の出席を得ておりますので、本会議は有効に成立しておりますことを御報告いたします。</p> <p>次に、本日御出席いただきましたオブザーバーのお二人を、お席の順に御紹介をさせていただきます。</p> <p>愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長の代理としまして、都市計画課長補佐の岩越敦哉様に御出席いただいております。愛知県尾張建設事務所企画調整監の代理としまして、愛知県尾張建設事務所総務課企画・防災グループ課長補佐の高木直貴様でございます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。</p> <p>また、事務局の職員につきましては、参考資料4「事務局等出席者名簿」にて、御確認いただきたいと存じます。</p> <p>それでは、会議を進めてまいります。</p> <p>会議の進行につきましては、尾張旭市都市計画マスターplan策定検討会議設置要綱の第4条第2項に、「会長は、会議を代表し、会務を総理</p>

	<p>する」とありますので、以後の会議の進行につきましては、本会議の会長である水津様にお願いしたいと思います。</p> <p>それでは会長、よろしくお願ひいたします。</p>
会長 (水津委員)	<p>皆さん、こんにちは。本日は御多忙のところ、御出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>ただいま、事務局から説明がありましたとおり、会議の進行につきましては、会長が行うということですので、以後の進行は私が行わせていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿って、進めさせていただきます。</p> <p>次第1 「はじめに」について、事務局よりお願いします。</p>
事務局 (担当)	<p>次第1 「はじめに」として、本日の会議の趣旨を説明します。</p> <p>【参考資料1の説明】</p>
会長 (水津委員)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、引き続き次第2 「議題」に入ります。</p> <p>まず、第1章から第4章について、前回会議での意見と修正の概要について事務局から報告をお願いします。</p>
事務局 (担当)	<p>それでは、議題 第3次尾張旭市都市計画マスターplan(素案)の第1章から第4章について資料1と参考資料2により説明します。</p> <p>【資料1 (第1章から第4章)、参考資料2の説明】</p>
会長 (水津委員)	<p>ただいま事務局から説明がありました。</p> <p>前回の策定検討会議での意見を踏まえ、第1章から第4章までの修正を加えたと報告がありました。</p> <p>報告内容について、御質問や御意見はありますか。</p>
野村委員	内容的にはすごく見やすくなったのですが、前回と比較した時に、文字が小さくなったように感じます。
加藤委員	フォントは、見やすくなつたと感じます。
事務局 (課長補佐)	<p>若干、文字が小さくなっているかもしれません、前回とそこまでは変わらないと思います。</p> <p>より見やすくなるよう、デザインと合わせてフォントや行間等を改善します。</p>
川口委員	3ページのグレーで示した名古屋都市計画区域の対象範囲について、周辺との位置関係を示すのであれば、岐阜県、三重県、周辺の都市計画区域の名称も加えて表現してはどうでしょうか。
会長 (水津委員)	<p>周辺の中の尾張旭市ということが分かるようにした方が良いかと思います。</p> <p>表現に関しては、最終的に調整していくと思いますが、特に内容に関する間違いや、誤解、あるいは前回の会議等で指摘したことと違う内容が記載されている点があればお願いします。</p>
加藤委員	<p>前回と比べると、すごく見やすくなっています。</p> <p>79ページ③の、先ほど説明された「歩行者と自転車が共存できる」と</p>

	いうイメージ写真が掲載されていますが、恐らく自転車の通行帯と歩行者の通行帯を色を分けて整備されるのかと思うのですが、いかがですか。
事務局 (課長補佐)	現在は、歩行者が歩いているぐらいの幅しかありませんが、その幅を拡幅整備して、このイメージ写真のとおり、安全に共存できるような幅を整備し、色分けは行いません。
川口委員	<p>第4章まちづくりの方針、緑・水辺・環境の67ページのコラム「尾張旭市の貴重な動植物」は、目標2の方針1「今ある緑や水辺を大切に守り、未来に引き継ぐ」に対して、保全を意識していて、生態的にこういうものがあるという紹介としてはふさわしいと思いますが、都市計画マスタートップランとしては関連計画に、緑の基本計画がありますので、そこで示している方針を記載できると良いと思います。</p> <p>61ページに断面図（コラム：尾張旭市立地適正化計画）があり、これによく似た断面図が緑の基本計画にもあるかと思います。市内のどういったところを共存・共生していくのかというイメージが伝わると良いと感じました。</p>
事務局 (課長補佐)	<p>緑の基本計画では、市の北側から川を経由して南側につながる断面図を掲載しています。様々な緑のエリアがあり、各エリアでどのような緑の施策を進めていくのかといった方針が掲載されています。</p> <p>現在、次期緑の基本計画を策定中であり、図の使い方も検討しているため、いただいた意見も参考にしたいと思います。</p>
奥村委員	80ページの「低未利用な民有地の広場的な活用」に写真が掲載されており、尾張旭市のどこの場所なのかなと思ったら、松山市でした。これは理想として掲載しているのでしょうか。
事務局 (課長補佐)	<p>そのとおりです。「低未利用地の広場的な活用」の例を示しています。人口減少に伴い、空き地が増加するため、そのような空き地を市民が使えるような広場として活用していくという1つの例として掲載しています。</p> <p>本計画でも、こうした低未利用地が増えてきた場合には、住民のコミュニティ広場等の小さな交流の場として活用していきたいという考え方を記載しています。</p>
奥村委員	<p>是非、進めてほしいのですが、やはりこの写真を見た人は「尾張旭市のどこ？」となるのではないかと思います。</p> <p>もし尾張旭市のどこかにそういう場所があれば、そちらを掲載する方が説得力があるかなと思いました。</p>
事務局 (都市整備部長)	写真のタイトルを「事例」とする等、誤解のない見せ方を検討します。
会長 (水津委員)	公園とは違う、遊び場・コミュニティ広場ができるということを伝えられると良いです。
岩越 オブザーバー	前回の会議でお伝えした64ページの「快適で衛生的な暮らしを支える都市インフラを整える」について、「更新」という言葉が記載されています

	<p>す。今後、都市インフラのメンテナンスに係る補助金を得る場合は、「老朽化」というキーワードが記載されていると進めやすいです。</p> <p>関連して 24 ページ「都市施設の維持・更新」においても、「老朽化」というキーワードを記載すると良いと思います。</p>
事務局 (都市計画課長)	「老朽化」というキーワードの追記を検討します。
会長 (水津委員)	<p>他に御意見や御質問等はございませんか。</p> <p>それでは、第 5 章と第 6 章に入ります。</p> <p>まず、第 5 章については、「まちづくりマップ」が、前回の策定検討会議から変わっております。</p> <p>また、「第 6 章 計画の実現に向けて」が追加されております。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (担当)	【資料 1 (第 5 章)、資料 2、参考資料 3 の説明】
会長 (水津委員)	<p>それでは、第 5 章「地域別の取組」と第 6 章「計画の実現に向けて」について、御意見や御質問等をお伺いします。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
川口委員	<p>地域別のまちづくりマップについて、非常に分かりやすくなってきて、良いと思いました。</p> <p>まだ、もう少し手を加えていくのだろうと思い見ていたのですが、例えば 93 ページの東部地域のまちづくりマップでは、背景にグレーの色が付いていますが、この境界が二重構造のようになっており、どこまでが東部地域かが分かりにくく感じます。</p> <p>私の認識では、濃いところが東部で、薄いところは隣接する地域といったイメージがあり、この際、薄いところは不要だと思います。</p>
事務局 (課長補佐)	<p>森林公园は、東部地域と中部地域に跨り、明確な範囲の線が引けなかったため、このような表示にしました。</p> <p>道路で区域が分かれる部分は明確にしていく等、改善を検討します。</p>
会長 (水津委員)	<p>まちづくりマップの丸いマークの色について、住環境、緑、水辺、環境、移動、楽しさ、まち育てにリンクしていると思われるが、それとマップの色が酷似しており、色で分別しているのかが分かりにくいため、図中に凡例を入れた方が良いと思いました。</p>
川口委員	<p>第 6 章のまちづくりの成果指標について、各目標に対して、2つずつ指標が設定されております。市民満足度のような間接的な評価もあれば、進捗率のような具体的な整備面積や距離等もあります。</p> <p>進捗率や補修延長に関しては、既に実行予定であり、整備をすれば確実に達成できることが見込んでいるものだと思いますが、こちらを含めなければならないのか、あるいはもう少しアウトカム的な、間接的な評価のものを重点的にしていくのか等、そのような検討の背景について少しお</p>

	伺いしたいです。
事務局 (課長補佐)	市民満足度は定性評価、感覚的な評価であり、数字的指標は定量評価です。本市の総合計画では、定性的な評価に加え、定量的な数字を捉えて評価していくという方向性ですので、都市計画マスタープランにおいても、両面から達成を捉えていくという考え方で整合させました。
鈴木委員	アウトカムとアウトプットの評価が、混在しているというのは、特に問題はないと思いますが、例えば北原山地区画整理事業の進捗や、三郷駅前の市街地再開発事業の進捗等、かなりピンポイントで事業の進捗率が記載されています。ここで表すべきものというのは、まち全体の進捗率を表す方が適切かと思います。ピンポイントの事業、場所の進捗率を採用したことに、少し違和感がありました。
事務局 (都市整備部長)	目標Ⅰと目標Ⅳでは、特に尾張旭市が、力を入れて進めている代表的な政策ということで、北原山地区画整理事業と、これから力を入れる三郷駅市街地再開発事業の2つを代表事業として取り上げています。 この2つの事業については、ピンポイントというイメージではなく、事業の実施により市全体に様々な影響を与えるという考え方を持ちながら、この事業を進めようとしているため、指標としてふさわしいと考えます。
会長 (水津委員)	こういうことを目指そうという意味で目標を掲げることに意味があるため、もう決定された事業は、順々と実施していくので、目標に設定せずとも良いと思います。 都市計画マスタープランとして大きく宣言をし、その意味を大きく皆さんに持ってもらい、その方向に向かうように意識を高めようという意義から言うと、既に決まって実施されている、進んでいるものを目標に掲げることの意味はあまり感じられません。
加藤委員	事業の進捗状況を定量的に捉えたとしても、二次的に影響する事柄を評価することは非常に難しいと思います。 例えば、北原山地区画整理事業と三郷駅市街地再開発事業の進捗率が100%になることで、三郷駅の利用者が増えた、人口が増えた等の成果や目標が達成される、ということが大事であるとは思います。 事業の進捗ではなくて、事業によりどのような目標が達成されているのかを図ることが有効であり、そうした目標に置き換えられると良いと思います。
川口委員	参考資料3の成果指標について、令和5年度のまちづくりアンケートの結果などを示しているが、総合計画の基本方針に位置付けられているものに関しては、総合計画で示している目標の値と合致しているという理解で良いですか。
事務局 (課長補佐)	括弧書きで「上位計画との整合指標」と書いてある項目は、総合計画の中にこの数字が位置付けられているということです。
川口委員	目標Ⅱの成果指標の都市計画区域内の緑被率について、前段で例えば「現状減ってきており食い止めが必要」といった記載がないと、唐

	<p>突に出てきたように感じます。</p> <p>現状減ってきてている状況の中、これ以上減らさないようにすることは、本当に可能なのか。どうすれば増えるということが具体的な記載があれば分かりますが、今後頑張っていきますといった意味で減らさないというのは、少し無理がある気がします。</p> <p>今後、農地を他の用途に転用するという計画が少しでも含まれる場合に、緑被率が減ることが明確であるにも関わらず「減らさない」とすることは、代替で緑をつくる、緑被率が低いところを高める等の施策がない限りは、現実的に無理だと思います。</p> <p>現実的には難しいが、理念としては減らしたくないというところがあるために、目標値という数字で表してしまうのは危険であると感じています。この点はもう1度考えた方が良いと思います。</p> <p>他にも「緑に親しめる場所・空間に満足している人の割合」において、関連計画との整合指標であることから、変えられない数値かもしれません、目標値を基準値よりなぜ7ポイント高く設定しているのかが分かりません。例えば、まちづくりアンケートを数年取っているのであれば、その趨勢から設定した等の理由を示してもらわないと分かりにくいと思いました。</p>
事務局 (課長補佐)	<p>まちづくりアンケートを基にした市民満足度について、例えば目標Ⅱの「緑に親しめる場所・空間に満足している人の割合」では、基準値より7ポイント高くすると示しておりますが、これは推移を追って設定しました。</p> <p>目標Ⅳの「日々の暮らしに「楽しさ」を感じている市民の割合」も同様に、まちづくりアンケートを基にした市民満足度ですが、10ポイントの増加を目指すとしている部分について、明確な根拠はありません。これは、第六次総合計画策定時に「前向きに捉え、10ポイント」と設定された経緯があります。このため、総合計画で定められた指標については変えることができません。</p> <p>都市計画区域内の緑被率については、御指摘いただいたとおり「公園都市」の理念を掲げ、今ある緑を極力守って未来につないでいきたいという気持ちがあることは、御理解いただいていると思います。そうした中、どのような数値で目標を示していくかは、再度検討します。</p>
会長 (水津委員)	<p>目標値が横ばいということは、緑を増やす努力をしないとそうはなりません。</p> <p>企業誘致や開発等があるため、積極的に緑を増やす政策を今後展開していくといった文言を入れないと、横ばいも難しいと感じます。そこも含めて書き方、表現の仕方を検討してください。</p>
松原委員	市は生け垣の助成を行っています。緑をつくることを推奨することを計画に記載してはどうでしょうか。

事務局 (都市計画課長)	まちづくりの方針の中に、具体的な記載を加えていきたいと思います。
加藤委員	この指標や目標値に対する実績は定期的にレビューされますか。
事務局 (課長補佐)	数値の見直しについて、例えば、まちづくりアンケートについては実施されるタイミングが決まっているため、その結果を用いて評価することになります。また、事業の進捗等を設定したものは、毎年度末の進捗状況を確認し評価していきます。
加藤委員	目標Vの指標「活動発表会及び交流会への参加団体数」の30団体を目標値にするということについて、都市計画マスタープランにおいて、参加団体数を指標とするのは初めてだと思われますが、団体数を増やすことは難しいと思われ、少しずれているように感じます。
事務局 (担当)	<p>この指標は、現行の都市計画マスタープランには載っておらず、総合計画の中で使われている指標となります。</p> <p>当該指標が使われている理由は、市民や団体、民間との交流がどのくらい活発に行われているかということを測るために、市が取り組んでいる交流会に対して参加した団体の数を捉えていくというものです。</p> <p>団体の母数を増やしていくことが難しくなるとは思っていますが、担当課に確認すると、交流会自体に参加する団体の数は増加しているということです。交流会に参加する団体が増えていくと、交流の機会が増えるのではないかといった考え方となります。</p>
会長 (水津委員)	<p>なかなか「量」で評価することが難しい分野ですね。</p> <p>満足度を上げるために交流を増やしたいところなので、そうすると満足度が上がったかどうかが本来は問われるべきなのですが、これが「量」で評価していくことが少しピンとこないのかもしれませんですね。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>進捗率等の具体的な数字は、今ある事業から指標を引用し、なんとか本計画の目標達成を測る定量的な評価として用いることはできないかと検討した結果を記載している状況です。</p> <p>実際には、目標達成を測るために新たに何かを調査していくような指標を設定することが難しいという現実があります。</p>
会長 (水津委員)	<p>目標Ⅲの「市内を運行する鉄道・バスの利用者数」について、まず、人口推計は、今がピークぐらいでそこから下がっていきます。</p> <p>平成30年頃の人口の時に、この程度の公共交通の利用率があったということに対して、目標年度には、その頃と同じぐらいの人口になり、公共交通の利用率も同じくらいになる。</p> <p>そう考えると、これは単純な予測であって、目標と言えるのか気になりました。</p>
事務局 (課長補佐)	<p>これから人口減少の局面に入る中で、公共交通を利用する人の絶対数は、御指摘のとおり下がります。</p> <p>ただ、人口が減少する中でも、公共交通自体の利用を促進することで、市民の足を確保していくという意味で、利用者をこの数字にしたいと考えています。</p>

	えております。
会長 (水津委員)	2035 年の予測が約 82,800 人ですから、ちょうど 2018 年時点と同じくらいです。だから利用者数も同じになるに決まっているというか、普通に考えると自然に任せる予測値なのではないかと思いました。
事務局 (都市計画課長)	公共交通は、コロナ禍で通勤通学も減り、まだ戻りきっていない現状にあります。コロナ禍以降、働き方が変わる等があり、実際には戻りきらないだろうということを鉄道会社も述べていました。 そうした状況にあっても、公共交通の利用促進によって、コロナ禍前の水準にまで増やしたいという想いで目標を設定しています。
鈴木委員	今の関連でよろしいですか。人口が減ったら当然、その利用者数も減るというのはあると思うのですが、自動車から公共交通への転換を図ると考えると、その分担率みたいなのをもう少し上げるというような考え方もあると思います。そういうことが見えたと良いなと思いました。
会長 (水津委員)	歩いて出かけたくなるまちづくりを推進すると、あまり公共交通に乗らなくなるという考え方もあるのでしょうか。
鈴木委員	歩いて出かけたくなるまちづくりと公共交通は割と親和性が高いので、相乗効果はあると考えます。
水戸部委員	第 5 章までの修正については、非常に読みやすくなり、現場の意見も取り入れてくれてありがとうございます。 都市計画マスター プランでは、斬新なアイデアを反映した夢のあるまちづくりをするという考え方を反映していかなければ良いと思います。 ただ、目標 V の指標「活動発表会及び交流会への参加団体数」については、市民活動支援センターに登録されている団体は、ある程度固定されているところであり、その団体同士の交流をしたからといって、担い手が増えることにはならないと思います。 現在の基準値 24 団体とありますが、実際にはさらに多くの団体が存在しているので、目標を 50 団体としても良いと思います。 そもそも、登録していない団体を数に入れると、30 団体という目標はあつという間に達成してしまいます。
岩越 オブザーバー	目標 III の「幹線道路の年間補修延長」は、市道を対象にしていますか。道路補修が行われることによって、移動のしやすさが変わるのがかという疑問があります。また、指標に採用するにしては、延長がとても短いと感じました。 目標 I の指標について、44 ページに、市街化区域内の人口密度 65.8 人 /ha を確保するという目標が記載されています。第 6 章でも指標として素直に記載しても良いのではないかでしょうか。
事務局 (都市計画課長)	指標に使われている幹線道路は、市道を対象にしています。 人口密度の目標値については、前の章に書いてあるため、本章では記載を外しましたが、定量的な指標としてこの章で改めて示すことも一考だ

	と思いますので、改めて検討します。
川口委員	<p>第3章や第4章に目標値や構想・方針を具体的に示し、それが成果指標として最後に振り返られる形にすると、読者にとって目標値がどの内容に関連しているか分かりやすくなると思います。</p> <p>市街化区域内の人口密度については、前章までに記載されているので第6章に記載しないというよりは、第6章にも前章にも記載した方が良いと思います。</p>
会長 (水津委員)	<p>人口が減っていく中で密度を維持することは、どこかに集めるということです。そのため立地適正化計画を推進するということだと思います。</p> <p>この人口密度の目標 65.8 人/ha を設定する意味が何かということがあり詳しく書かれていないと、読んだ方も分からぬと思われます。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>まず人口密度の目標は記載しておきたいと思います。</p> <p>各目標に指標を2つずつ記載しているものを、定量的な進捗率等の数字目標は記載せずに、満足度だけ載せるというパターンもあるという理解でも良いのでしょうか。</p>
会長 (水津委員)	<p>今の議論だと意見が分かれるかもしれません。</p> <p>市街化区域内の人口密度 65.8 人/ha という数字を示すことは、意味があるのでしょうか。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>43ページに、人口密度の推移があり、少なくとも市街化区域については人口密度を維持していくことが、今の生活利便性を確保できるということから、少なくとも現状を維持したいという考えがあります。</p> <p>量的な目標は、記載するのであれば、意味のあるものにしていかなければならぬと感じておりますので、改めて検討します。</p>
会長 (水津委員)	<p>現状の生活利便性に対する市民満足度が高水準であることから、それを最低限維持していくためには、今あるぐらいの人口密度が必要だろうという判断で、65.8 人/ha に設定したということですね。</p> <p>意味のある数字なのであれば全面に出し、そうでなければなくても良いと思います。</p>
岩越 オブザーバー	参考としては、立地適正化計画にも市街化区域ではなく居住誘導区域内の人口密度の目標が設定されていると思われます。改めて検討してみたければと思います。
会長 (水津委員)	<p>会議以降にも追加の意見や質問は受け付けるということなので、本日はこの辺りで終わりにし、何かあれば後日、事務局に連絡していただければと思います。</p> <p>それでは、議題は以上とさせていただきます。それでは次第3「その他」について、事務局からお願ひします。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>本日は、お忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。</p> <p>本日の意見を踏まえ、計画の修正を行います。また、本日は最終的な資料をお渡しするのが、直前となりましたので、改めて、御確認いただき、</p>

	<p>御意見等がございましたら、10月中にメールや電話で構いませんので お願ひしたいと思います。</p> <p>冒頭でもお伝えしましたが、12月よりパブリックコメントを実施し、 市民から広く意見を募ります。また、12月2日には都市計画審議会で計 画書（素案）の報告を行いますので、併せて御承知おきください。</p> <p>次回で最後となります第5回策定検討会議では、パブリックコメント での意見を踏まえた計画（案）をお示しすることになります。</p> <p>開催時期は、年明けの令和8年2月中旬頃を予定しております。詳 細は別途御連絡します。</p> <p>その他としては、以上です。</p>
会長 (水津委員)	<p>ただいま、事務局から説明がありましたとおり、今後はパブリックコメ ントを実施し、市民から広く意見を募ることです。また、次回の会議 は、令和8年2月中旬頃に開催されることです。</p> <p>皆さん、お忙しい中かと思いますが、御協力を願いいたします。</p> <p>それでは、これをもちまして、第4回尾張旭市都市計画マスタープラン 策定検討会議を閉会といたします。</p> <p>皆さん大変お疲れ様でした。</p>